

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名	項目	要旨		メ	モ
1. 市政運営の基本的な考え方	1. 信頼される市役所について	<p>1. 本年の展望を表す一文字は「信（しん）」です。信義を貫き、信念を持ってまちづくりにまい進し、市民の皆様と「自信と誇りを持てるまち」をつくとともに、市職員一丸となって意識改革を図りながら「信頼される市役所」を目指してまいります。と述べている。</p> <p>「刷新」を掲げた前田市長になり、信頼は徐々に回復しつつある。しかし、一度失ったものを完全に戻すためには、風通しが良く、物を言いやすい職場、問題点を素早く改善する職場にならなければならない。言葉だけでないことを示す事例や状況について伺う。</p>			
		<p>2. 日本共産党の調査（総務部、教育委員会に対する聞き取り）で、嘱託職員・臨時職員を選考採用（試験によらず書類・面接で決定する）ときの履歴書について問題があることがわかった。それは、①提出される履歴書に、賞罰や資格・特技の記載欄がないものがある。②履歴書の内容は市で統一したものがなく、各部、各課、教育委員会などで任意のものになっている。③市販の履歴書に資格欄がないものはあり得ないが、応募者がパソコンで自作する履歴書があり、資格・賞罰記載がなかったものが実際にあったというもの。問題は、これまでの選考結果ではなく、その問題点を指摘してから半年以上経過しても、庁舎内で改善の動きがないことです。このようなことで、信頼される市役所と言えるのか。即刻改善し統一履歴書にする考えについて伺う。</p>			
	2. 将来を見据えたまちづくりについて	<p>1. 滝川地区広域消防事務組合消防本部、滝川消防署庁舎など「将来を見据えたまちの姿を描いていく必要性を感じている」と述べている。体育施設の大規模改修が完成し、滝の川斎苑の建て替え、一般廃棄物最終処分場施設整備計画、二の坂保育所の建て替え計画など、市の将来に不可欠な整備が進められていることは、評価できる。施設整備については、必要性、緊急性を最優先することを基本にすることを改めて確認する。</p>			

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名	項目	要旨		メモ	
2. 元気な産業と活力あるまちづくりについて	1. 農業を起点とした元気な地域産業づくりについて	1. 地域農業者と民間企業のマッチングを通じて、市場から求められる野菜など付加価値の高い農産物の産地形成を進めると述べている。深川市ではピーマンなどのハウス栽培が初夏に契約出荷されている。花きやトマトなど競争が激しい品種に代わるハウス品種で、燃料をあまり必要としない初夏出荷のものについてどのように検討しているのか。			
	2. 持続可能な農業のための生産基盤・体制の確立について	1. 米の生産数量目標の配分廃止や米の直接支払交付金の廃止など、平成30年産からの国の米政策の見直しに対応し、農業経営の安定化を図りますと述べている。10アールあたり7,500円の減収のほか、①府県産米の増加見込み、②大企業の米作参入など、米作中心の滝川の農業への影響をどのように把握しているか。			
	3. 力強い産業の育成・雇用の確保について	1. 産業支援相談窓口などの活用により、新分野進出・起業化・販路拡大・新商品開発などの取り組み支援、事業承継支援を行うと述べている。①事業承継を望み相談所を訪れる内容の特徴について伺う。②総合戦略の重要業績評価指標（KPI）では、「相談件数50件（5年間）創案件数10件（5年間）」としているが、進捗状況について伺う。			
		2. 企業誘致の推進については、数十年ぶりに企業が進出したが、新たな誘致についての課題は何か。			

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名	項目	要旨		メ	モ
		3. 市政執行方針では、産業育成と雇用の確保にとどまり、賃金増のための施策には言及していない。地域経済の活性化、人口増、子育て世代支援の幹は、賃金増であることは、いまや国民の共通認識だが、ほとんど進んでいない。そこで①市内建設労働者の賃金は国交省労務単価引き上げでどれだけ上がっているか。また、市として反映させるための努力をしているか。			
3. 豊かな資源を活かした魅力あふれるまちづくり	1. 地域自ら取り組む地域振興事業の推進について	1. 地域資源である「日本一の菜の花畑」や「防風林に囲まれたリンゴ畑」の景観維持など、「日本で最も美しい村」江部乙協議会の活動を支援すると述べている。一方で国産ナタネの加工業者が、在庫が増え、売り上げも厳しい中で、「今年は買えない。」と契約栽培先に依頼していると聞く。菜の花まつり前に、大豆などに切り替える農業者もあり得る。日本一の菜の花畑が維持できない可能性もある。国産ナタネ日本一の作付け、低農薬、遺伝子組み換えでないなどを前面にブランド化が進められてきたが、さらなる差別化に向けた取り組みが必要ではないか。			
4. 機能的な生活基盤の充実したまちづくり	1. コンパクトで機能的な都市の形成について	1. 下水道分流化事業については、河川の水質を保全するため、合流式下水道区域の分流化工事約12.2haを実施すると述べている。下水道事業は、100年先を見通すような多世代間に関わる性格を持つ。①総務省が求めている経営戦略の進捗状況と市民説明について、②基本水量の改定をどのように進めるのか。			
		2. 「滝川市公共施設マネジメント計画」に基づき、地域住民や施設利用者などと各公共施設のあり方について検討を進めると述べている。これまでに、コミュニティ施設、中央老人福祉センターなどについて、同様の検討をしてきた。新年度の計画について伺う。			

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名		項目	要旨	メモ	
		2. 賑わいのある中心市街地の活性化について	1. 中心市街地の活性化に向けては、再開発事業への支援を引き続き行うほか、商店街などの賑わいを創出する取り組みを推進しますと述べている。しかし、買い物客の駐車場は、駅前に十分な公共的な駐車場があるだけで、その他は各店舗の駐車場利用となっており、賑わい創出の課題になっている。①市営第一、第二駐車場の廃止を補う公共(的)駐車場は、地価が下落した今、設置可能だが考えは。②買い物客用の駐車場が充実すれば売り上げが伸びる店舗もあると考える。個人店舗の月極駐車場への補助制度創設の考えは。		
		3. 住宅ストックの適正管理について	1. 移住・定住に資するため一戸建て住宅の新築に対する助成制度を設け、高品質な住宅の建築促進と地域経済の活性化を目指すとして述べている。予算に1,980万円を計上しており、大きく評価する。一方、中古住宅購入が限界の低所得者からの不満は当然出ると考える。空き住宅解消策としても中古住宅を対象にすることが必要と考える。中古住宅購入に対する助成は、社会資本整備交付金の対象外になっているのか。		
5. 誰もが住みよい安全安心なまちづくり		1. 市内公共交通の充実について	1. JR根室本線の維持存続に向けては、沿線自治体4市2町で構成する根室本線対策協議会において利用促進策などの検討を進めるほか、北海道市長会とも連携しながら対応に当たりますと述べている。存続には、施設設備への国の財政負担と分割の見直しが必要との世論が高まっているが、市長の考えは。		

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名	項目	要旨		メ	モ
	2. 地域福祉・自立支援の充実について	1. 「特別養護老人ホーム緑寿園利用者負担軽減事業費補助金」を創設し、当該利用者の負担軽減に向けた支援として1,435万円予算化されたことにより、経済的理由で他の施設に移らずに住み続けられることができる。議会との約束でもあったことで大きく評価する。一方、軽費老人ホームからケアハウスになること、養護老人ホームに特定施設入居者介護が設置されること、栄町3-3地区で老人保健施設を民間が整備することで、低所得者も利用できる施設介護体制が大幅に充実すると考えるが、需要に対してどのような到達点となるのか。			
6. 未来へはばたく子どもたちを育むまちづくり	1. 滝川市で子育てしたいと思われる環境づくりについて	1. 平成28年度に実施した「(仮称)女性活躍推進センターに関する調査」の結果や児童福祉法などの改正を踏まえ、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を目指し、「子育て世代包括支援センター」の平成30年度設置に向けて準備を進めますと述べている。①センターの概要、②財源について、国・道の補助制度はあるのか伺う。			
		2. 本調査結果から必要とされる各機能のうち、「子育てをしながら働きたい女性が安心して、子育てと仕事を両立できる環境づくり」については、官民連携の手法も含め、引き続き検討を進めますと述べている。市政執行方針を作る側は、「(仮称)女性活躍推進センターに関する調査」結果をほぼ把握している。一方、市民・議会に対しては、まったく示されていない。このようなことでは、協働のまちづくりや、信頼される市役所とは程遠い。①なぜ中間的な説明を2月頃にしなかったのか。②調査結果の概要について伺う。			

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名	項目		要旨		メモ
			<p>3. 施設が老朽化し耐震補強が困難な二の坂保育所については、早期建て替えに向けて具体的な検討を進めますと述べている。①入所園児数の増減などの傾向について、②建設財源の見通しについて伺う。</p>		
7. 市民が活躍するまちづくり	1. 市民が生きがいを持って活躍する地域づくりについて		<p>1. 江部乙地域におけるコミュニティ活動の拠点形成などに向けた検討を行うため、農村環境改善センターの施設機能の再点検を行い、基本構想の策定に着手すると述べている。日本共産党は、平成27年第2回定例会の代表質問で国の制度（過疎集落等を対象に、継続的な集落の維持活性化のため、日常生活支援機能の確保と地域産業を振興する取組をモデル的に支援する）を活用した取り組みを江部乙・東滝川地域で実施することを求めた。①有利な交付金を念頭に計画づくりか。②交通弱者支援など施設利用そのものが大変な市民対策も同時に進めるか。</p> <p>2. 多世代交流、生涯学習、医療・福祉サービスの仕組みや居住環境などを充実させ、高齢者などが生涯安心して健康で自立した生活を送れる「生涯活躍のまち構想」を推進するため、「滝川市生涯活躍のまち基本計画」に基づき、事業全体の推進役を担う事業主体の選定に着手しますと述べている。①滝川版CCRC基本計画策定調査業務を委託し、3月末に策定されるが、その中間報告もなしに、また、市民への説明なしに、事業全体の推進役を担う事業主体の選定に着手するとは、市民置き去りの進め方ではないか。②基本計画の概要について、③「事業」の財源について伺う。</p>		

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名	項目		要旨		メモ
8. 効率的な行政運営によるまちづくり	1. 事務などの効率化について		1. 財政健全化計画に基づき、着実に事務事業や組織・人件費の見直し、歳入確保対策を進め、平成31年度までに財源補てんに当たる基金繰り入れを行わないことを目指し、持続可能な財政運営に向けて取り組むと述べている。市の財政が苦しい原因は、人口減少、数年前からの電気料金増、消費税増税など市町村共通のものと、第三セクター清算の起債償還（毎年9,000万円）、市庁舎建設の起債償還（毎年約2億円）、市立病院建設費の一般会計繰り入れ（毎年1億円以上）など滝川市独自のものがある。財政健全化計画の3年度目だが、基金繰入金を3億5,986万円計上した。これで年度末基金残高は、計画起点の26年度末22億円、27年度末21億8,000万円、28年度末見込み21億6,000万円、29年度末見込み額18億8,000万円と推測する。目標達成のために30年度以後に新たに反映される事務事業の見直しと組織・人件費の見直し、歳入確保の概要について伺う。		
			2. 財政健全化計画を達成すれば平成31年度以後、財源補てんの基金繰り入れなしで運営することができるとしている。しかし、自由に使える資金を示す指標の一つである経常収支比率は、平成26年度99.2%で、夕張市に次ぐ道内179市町村ワースト2番だった。この比率は31年度末までにどこまで改善を見込んで計画されているのか。		
			3. 予算大綱で公共施設の一元管理については、滝川市公共施設マネジメント計画に基づき、持続可能な公共施設運営を図るため、公共施設修繕事業費2,477万円を計上したと述べている。①この予算の対象になる施設の範囲について、②中央老人福祉センターの利用者が減少しているというが、一般市民の利用について建設時以降、検討したことはあるのか。		

質問順位	5	質問者	清水雅人議員	件名	項目	要旨	メモ
		<p>4. 平成30年度に国民健康保険の財政運営主体が都道府県に移管される「都道府県単位化」に合わせ、保険税率を見直すなど国保財政健全化を目指しますと述べている。この記述では、市民の負担を度外視している。国民健康保険準備基金がなくなった滝川市の場合、全額市民に転嫁すると平均約7%の保険料増になる。道内過半数の市町村が実施している一般会計からの繰り入れを一定額行い、平均的な行政レベルでの見直しにすべきと考えるが、市長の考えを伺う。</p>					
	2. 広域連携について	<p>1. さらに広域連携を推進しますと述べている。隣町の施設が近い市民も多い。たきかわホール廃止もあり、施設の広域的利用促進が望まれるが、どのように進めるか。</p>					
9. 教育行政執行方針	1. 学校教育について	<p>1. 市独自で導入している小学校3年生「少人数学級実践研究事業」を引き続き推進するとともに、小学校高学年における少人数学級拡充に向けた検討を進めますと述べている。学校教育の最優先課題の一つとして推進すべきだが、課題について伺う。</p> <p>2. 退職教員等外部人材活用事業やチャレンジテストの活用などにより児童生徒の放課後学習機会の拡充を図ると述べている。授業が難しい、関心を持ってない、また家庭環境の問題などにより、特に習得が進まない児童生徒に対する指導対策をどのように進めるか。</p>					

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名		項目	要旨	メ	モ
			3. 障がいのある子ども一人ひとりの実態を把握し、適切な指導及び支援を行うため、保健福祉部などと連携してインクルーシブ教育システムの充実を図るとしている。教育委員会での人材・予算の措置はあるのか。		
			4. 外国語教育の充実と異文化を理解する力を育成するとともに、英語によるコミュニケーション意欲・能力の向上を図るため、「イングリッシュ・デイキャンプ」を実施するとしている。人材・予算面での措置はあるのか。		
			5. 次期適正配置計画（平成33年度～平成42年度）に向けた、検討をどのようなスケジュールで進めるか。		
			6. 大規模改修等については、計画的・効率的に実施するため、建築年次や老朽化、学校の適正配置計画などを考慮した施設整備方針を策定すると述べている。本来なら平成28年度から5年間の施設整備方針・計画がされなければならなかったが、これを1年遅れて策定するということか。		

質問順位	5	質問者	清水雅人議員		
件名		項目	要旨	メモ	
		2. 社会教育について	<p>1. 平成28年度に文化ゾーンの検討の中で定めた文化芸術分野を活性化するための基本方針に基づき、関連施設の見直しについて、市長部局と連携し検討を進めると述べている。市政にとって20年に1度とも言える大規模事業になる可能性があり、45%地方交付税措置される補助制度があるとはいえ、多額の後年度負担となる。補助制度活用には、平成30年度基本計画から平成33年度までに工事終了しなければならない。市庁舎など既存施設を有効活用して投資を低く抑えることができるかどうか、市民の理解を得るための最低条件になるのではないかと。</p> <p>2. 質の高い文化芸術の鑑賞・体験を通して児童の豊かな心や感性を育むため、音楽や演劇などの分野の芸術家を派遣するアウトリーチ事業を小学校2校で実施すると述べている。なぜ2校しか実施しないのか。これでは3年間に1回ではないかと。また、中学校では実施しないのか。</p> <p>3. 石狩川河川敷パークゴルフ場がオープンするが、交通弱者対策はどのように考えているのか。誰もが気軽に親しめるスポーツであるパークゴルフを通じて、健康増進、多世代交流、地域交流などを推進するとしながら、タクシーを利用しやすくする補助制度や送迎バスなどをこれまで提案してきたが、全く計画されていない。誰でも行けるような対策を求める。</p>		